

発掘ニュース

第 29 号

平成 2 年 11 月 18 日

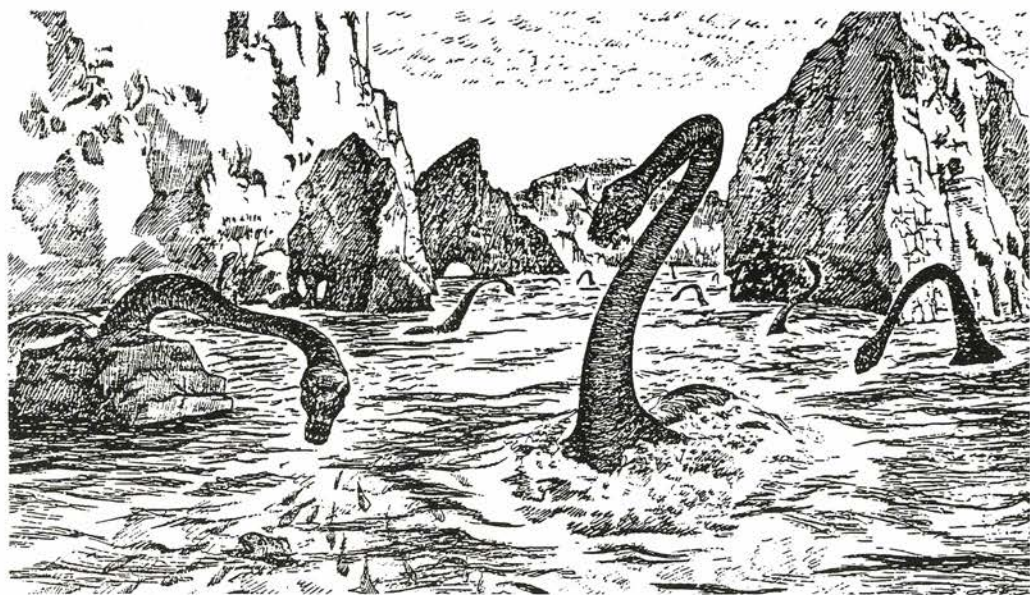
発行 財団法人 いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

ふるさと創生化石発掘学術調査

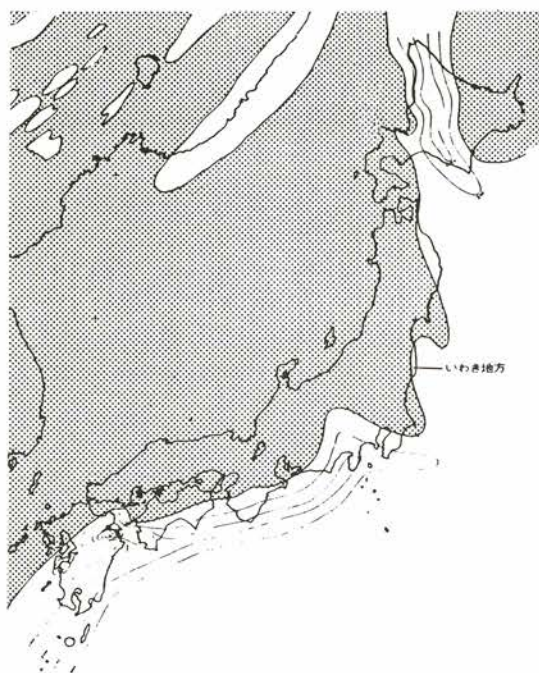


海竜の里整備事業の一環として、今回人間沢地区での化石発掘調査が実施されました。この人間沢地区は、昭和43年にフタバズキリュウが発見され、その後、昭和56年には人間沢川の右岸、57年には左岸でのクビナガリュウ化石調査も実施され、多くの化石が発見されました。今回の調査は、昭和56年に実施された地層を北側にむかって延長した地域を対象にしました。もともとこの層は、フタバズキリュウが産出した地層と同じ層準にあたります。

調査を行う前にボーリングを入れ、地層の確認を行いました。その結果、人間沢地内の水野谷喜夫さん所有の水田下に化石を含む地層が分布していることがわかり、稲刈り後の水田をお借りし、水田の下を発掘調査しました。



フタバズキリュウがいたころ



8千万年前の日本列島

今からおよそ8千万年前、日本列島はアジア大陸の東端にあり、浜通りの一部は浅海でした。



ネズミザメのなかま(クトラメ)の歯



サケ目魚類 (インコウダ) の歯

①8千万年前のいわき

四倉町玉山付近から双葉郡檜葉町付近までの地域には、双葉層群という浅い海で堆積した地層が分布しています。この地層は、下から足沢層、笠松層、玉山層に分けられ、これまでも一番上の玉山層からは、ほぼ完全なクビナガリユウ類の「フタバズキリュウ」、海とかげ類のモササウルス、ノコギリエイ、サメ類、体長3mにも達するサケのなかまの魚類が発見されています。また、この浅い海には、さほど遠くない陸地から流された多数の植物化石が堆積していて、その中には、植物のヤニが化石となったコハクが多数入っています。昆虫が入っているものも多数発見されています。同じ玉山層からは陸から運ばれた恐竜の歯も発見されており、陸地には多数の恐竜が生息していたことがうかがわれます。これらの発見された資料から、8千万年前のこの地域は、暖かい熱帯・亜熱帯性の気候であったことがわかりました。

②発掘調査

現地調査は10月15日から11月14日までの1カ月間行われました。はじめに水田の土とその下の段丘堆積物を取り除き、玉山層を露出させました。露出した地層の堆積方向を調査し、1mメッシュに区画し、削岩機で岩を剝離し、化石を取り出しました。地層は、10～20度位の傾斜で堆積しており、西側ほど古い地層であることがわかりました。脊椎動物を多く含む地層は、東側に分布していました。また、地層が堆積した環境を知るために礫や砂岩も採集しました。

③産出した化石

今回産出した化石は、クビナガリユウ類の脊椎骨、肋骨、指骨、手根骨、烏口骨、腸骨、歯など120点以上にのびります。また、300点を超えるサメの歯やカメ類、体長3mにも達するサケ目魚類の歯、貝類、植物化石、コハクなど合計740点以上の化石を取り上げました。多くの化石は、その産出状態が礫を多く



クビナガリユウの歯



クビナガリユウの脊椎骨とサメの歯



クビナガリユウの腹部肋骨



クビナガリユウの指骨



水田面下の発掘調査状況



化石と地質の勉強会



体験発掘での産出化石説明



体験発掘（11月3日文化の日）

含む所に集中することから、流されてきてそこに堆積したと考えられます。

④体験発掘

調査期間中、11月3日・4日・11日の3回、体験発掘を行い、延べで368名の方々が参加されました。なかにはクビナガリュウの歯や肋骨、サメの歯、サケ目魚類の歯などを発見した人もおりました。

体験発掘の時は調査が実施中のため、調査員が現場で産出したばかりの化石を説明することができました。11月3日は、化石と地質の勉強会を催し、講師の先生がいわき市内の化石や8千万年前の地層の話をしました。



化石についての問い合わせ先
財団法人いわき市教育文化事業団
TEL (29) 0391